\こんなことがありました/

まちの話題

持続可能な未来のために 高校生が考える環境問題

市内の高校生による環境をテーマにした「直方市環境サミット」が1月14日イオンモール直方で開催され、市内4校の高校生が環境に関する日頃の研究結果を発表しました。

鞍手高校は、脱炭素社会の実現を目指し、再生可能エネルギーの普及について検討。生徒や保護者にアンケートを実施し考察した結果、分かりやすいメリットを提示した上で、取り組みを促していくことが重要と発表。

筑豊高校は今年度、リユースによる衣類の焼却量の減少、収益金の寄付によるパラスポーツの発展などを目的に「ふくのわプロジェクト」へ参加。来年度は地域を巻き込んだ活動にしてSDGsへの取り組みを周知したいと発表しました。

直方高校は、会場アンケートでこれからの1年の考察テーマを決定。「私たちの15年後の生活」をテーマとし、エネルギー問題とAI技術の向上について、来年の環境サミットで研究結果を報告することを約束しました。

大和青藍高等学校は、授業等でのタブレット活用における紙の使用量削減に着目しSDGsの目標15、森林保全について考察。人為的な問題によって引き起こされている森林破壊を防ぐため、①ICT技術の継続活用、②再生紙の使用、③植樹ボランティアへの参加を行い、来年の環境サミットでその成果を発表します。

各校の発表を聞いたコメンテーターの近畿大学依田教授は「どの発表も環境問題の解決に向けた素晴らしい発表。ぜひ来年以降も継続してほしい」と講評し、市長は「目の前に危機が来ていることを実感し、この研究から行動の変化に繋げて、将来のために取り組んでほしい」と話し、来年の発表に期待しました。

(株)アステムと連携し 豊かな人生100年を応援

1月23日、市と株式会社アステムは健康長寿社会の実現に向けて、「のおがた豊かな人生100年現役応援」に係る連携協定を締結しました。

この連携協定は健康寿命延伸を目的として、骨粗しょう症予防をはじめとした健康づくりにおける様々な知見を有している同社と連携することで、市民の健康づくりの推進や地域の活性化が期待できます。

同社北九州営業部・馬場映至(てるゆき)部長は「地域のみなさんを基軸とした取り組みを提案し、みなさんが豊かに過ごせるよう邁進していきたい」と話しました。

子どもたちの力作がズラリ のおがた子どもアート大賞展

1月22日から2月12日、直方谷尾美術館で第2回のおがた子どもアート大賞展が開催されました。直方の未来を担う子どもたちの個性を延ばすことを目的に開催され、今回は993点の作品の中から、17点が入賞、266点が入選しました。

審査をした九州産業大学の酒井忠臣名誉教授は、「中・高生はテクニックやデッサン力があり、小学高学年は観察力や造形力が増し、低学年は自由な発想と色彩で日常の感動を敏感に捉えた力作が多く、今年はレベルが高かった。受賞した作品は技法、素材に独創性があり、個性豊かな独自の世界が表現された意欲ある力作」と講評。大賞を受賞した中村心咲さん(鞍手高校3年生)は、「飼っている猫がお花の園を覗いているところを描いた。大賞に選ばれてうれしい。今後も趣味で絵を続けていきたい」と話しました。

市長は「さまざまな年齢の子どもたちの才能をしっかりと伸ばしていくことを地域にも根差したい」と話しました。

市のホームページでは、
この他の話題も公開しています。

火災から命と文化財を守るために

1月26日、文化財防火デーにあわせて、市消防本部が石炭記念館本館で消防訓練を実施しました。

訓練が行われた石炭記念館本館と救護練習所模擬坑道を含んだ筑豊炭田遺跡群は国史跡に指定されています。本館には日本で初めて使われたドレーガー式救命器が展示されており、救護練習所模擬坑道では延べ4万人以上の救護隊員が練習を行ったレスキュー隊のルーツとも言える場所です。

訓練は建物裏山から白煙が上がり、建物への延焼のおそれがあるという想定のもと行われ、消防関係者15人と消防車両4台が出動し、迅速な作業で火元への一斉放水を行いました。

訓練後、宗近消防長は「レスキュー隊のルーツでもある地で先人の思いを感じた。日々訓練を重ね、有事に備えたい」と述べました。

55年の歩み 直方歩け歩け会

「直方歩け歩け会」は昭和44(1969)年に発足し、毎月会員との交流を深めながら活動を続け、令和5年度に55周年を迎えます。現在の会員は98人。毎月1回県内各地の公園や名勝地などにバスで移動し、自然を楽しみながらのウォーキングで日頃の運動不足を解消しています。毎月仲間とともに歩くことを楽しみにしている会員も多く、仲間と会って話すことが健康づくりだけでなく、生きがいにもつながっているそうです。副会長の小野さんは「月に1回は外に出て、仲間と楽しく歩くことが元気の秘訣。健康のために、今後も継続して活動を続けていきたい」と話しました。

令和5年度の会員も募集中です。詳しくは16ページをご覧ください。

小学生が市水道キャラクターをデザイン

SDGs目標6「安全な水を世界中に」を身近に感じ、水道への興味を持ってもらおうと、浄水場の社会科見学に参加した市内の小学4年生を対象に水道キャラクターコンクールを開催しました。

92点の応募の中から、加藤聡一郎さんの「浄水タプ太郎」と新開心音(みおん)さんの「みっぴー」が最優秀作品に選ばれました。今後水道事業のイメージアップに、このキャラクターが利用されます。

あまおうとハチミツのジャム 6次化商品セレクション受賞

上新入の合同会社ファーム貞光が製造・販売を行う「あまおうとハチミツのジャム」がふくおか6次化商品セレクションにおいて、福岡県議会議長賞を受賞しました。地元の素材にこだわり、砂糖や保存料を使用せず、自社で生産するあまおうと国産はちみつを贅沢に使用している点や、低温かつ真空状態での調理により風味を残しつつなめらかな口当たりに仕上げている点など、ものづくりに対するこだわりが評価されました。

貞光さんは「賞をいただけて光栄。今回の受賞は次につながるものだと思っているので、今後の励みにしていきたい」と受賞を喜びました。